

くきょうじ  
弘教寺

つつじ寺だより



## コロナ禍の差別

弘教寺住職 中山英昭

中国武漢に端を発した新型コロナウイルスの感染は瞬く間に世界中へと広がり、いまだに収束の様子が見えません。

コロナ禍の中、非常に残念に思うことは、コロナ感染者だけでなく、命がけで治療された医療関係者に向けられた差別です。得体の知れないウイルスへの恐怖からくるものだと思いますが、医療にたずさわる医療関係者の皆さんにとって患者さんと接することの恐怖に加え差別まで受け、さらに家族まで偏見や差別を受けることは、やり場のない苦しみや悲しみを抱えることとなります。

コロナウイルスに関係する差別はハンセン病を取り巻く差別に共通している部分が多くあるように思います。

コロナ禍の3月、ハンセン病隔離施設の草津栗生楽泉園の自治会長を長く勤められた藤田三四郎さんが逝去されました。

現地研修などでハンセン病差別の厳しい現実を熱く語って下さった藤田さんが懐かしく思い出されます。国の隔離政策により社会的な差別が本人や家族まで及ぶという差別の現実には多分当事者でなければ分からないことと

第46号

発行所

〒370-0131  
伊勢崎市境米岡二七九-二  
浄土真宗本願寺派弘教寺  
寺報編集部  
電話0270(七四)0573



寺のQR

思います。地域社会、家族から隔離され、人間としての尊厳さえ認められない厳しい現実の中で生きられたのですから。

研修以前私自身ハンセン病についてのしつかりとした知識もなく、差別的意識や怖さが心のどこかに存在していたことは否めない事実でした。しかし、学びを重ね親しくお付き合いする機会を通して差別の意識が無くなつた事を覚えております。ハンセン病に対しては有効な薬(プロミン)が開発されわずかな期間で無菌の状態になるのです。

私自身の経験からすれば、正しい情報を知り、正しい知識を持つことの大切さを学ばせていただきました。コロナウイルスの場合も同様であると思います。曖昧な情報にたより、不安やいらだち、ストレスを増長させていきます。その結果ウイルス感



染者の家族や医療関係者の家族までも偏見や差別の対象として広がってしまいます。藤田さんは故郷の家に帰ることはなかったようです。家族・親戚に会うときはホテルで会ったと話されていきました。家族や親

戚に差別や偏見が広がることへの配慮だったようです。

ボードビリアンのマルセ太郎さんという方が、「記憶は弱者にあり」という言葉を残しております。太郎さんは在日コリアンとして差別を受けてきた方です。私達の中に差別はあります。人種差別、部落差別、障害者差別、性差別と枚挙にいとまがないほどであります。マルセ太郎さんの言葉のように差別を受けた側に立たなければ分からないのかも知れませんが。

今世界中で夜間ビルや塔にブルーライトを照らし、医療関係者に感謝の意を表したり、皆さんで感謝の拍手をしたりと素晴らしいパフォーマンスが広がっております。とても良いことだと思います。こうした行為が差別を生まない基になると思うのです。

親鸞聖人は私達を「煩惱具足の凡夫」とお示しくださっております。差別しないようにと思っても差別してしまう私があるということだと思います。差別される側に立って物事をみていく、その様な見方を常に持っていることが大切なことだと思います。

宣言緩和以降、都市部での感染が増えつつある今日、命がけでコロナウイルス治療に取り組む医療関係者に大きな尊敬と感謝の思いを持ちたいものです。

また、感染された方々や家族に向けられる差別や偏見を持たない一人一人の私、そして社会であることを願うばかりです。

合掌

## 通院患者として

新型コロナウイルスが新聞やテレビで報道されるようになり、「なぜ新型？」と思っていました。婦人会の例会で2012年サウジアラビア、2002年中国でコロナウイルスが発生したと坊守より説明頂き納得しました。

コロナ禍でも血液検査や診察のため病院へ行きました。病院の様子も少しずつ変わって来ました。敷地内にテントが張られ、入り口には消毒液が置かれ、新聞で報道された人が入院しているのだと思っていました。緊急事態が発表されて劇的に変わりました。入り口で風邪の症状を確かめられ、中で体温測定と手の消毒を職員が指導していました。受付機の前は人が少なくいつもの長蛇の列がありません。院内でも対面での場所は全て飛沫防止のため透明なシートが掛けられていました。広い待合室もいつもの半分以下で閑散としていました。診察室の先生の対応はそれぞれで、マスクだけの人、頭にキャップ、フェイスシールドにマスクと重裝備



の人、ドアを開けると濡れマツトが置いてあったりと色々でした。病院の対応に大きな不安なく通院しましたが、6月に入り新しい生活習慣で少しずつ以前の生活に戻れたらと思います。(佐藤静枝)

## 新型コロナ禍の中で

## 私の自粛生活

コロナ禍？初めて耳にする言葉でした。新型コロナウイルスの感染力が強いと聞き、恐怖を感じます。3月には公共施設の使用が禁止され、お祭りや地域の各種行事も中止となりました。公民館の月2回の体操は休みになり、6月に入って再開の許可が出ましたが、3密対策の下、マスク着用の体操は体の負担を考えて9月まで休むことにしました。文化センターでのオカリナ教室は、再開の連絡はなく、一人での自主練習にも身が入りません。長年続けているパッチワーク教室も休みになり、2年に一度の作品展が予定されて、自分の大きな作品も完成間近で張り切っていた分、力が抜けてしまいました。6月、教室が再会！いざれ開かれる作品展に向けて今、頑張っています。

外に出る活動が休みで、寺の行事やサークルも中止の間、パッチワークの端布を生かしてマスク作りに精出しました。ミシン系やゴム等品切れの時は岩手の妹から調達し、サイズやデザインを調整して、孫たちに何度も作っては贈りました。

自粛生活も終わり、サークル活動の先頭を切って、6月1日、寺の「パッチの会」が再開しました。早く普段通りの生活に戻りたいと願っています。(佐々木祐子)



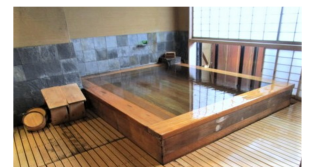
手作りマスク

## 新型コロナと向き合って



豪華な夕食

ボランテア仲間と温泉を堪能して新型コロナウイルスをすっかり忘れる旅をしています。6月初めに訪れた草津の湯畑は平常であれば観光客でにぎわっているのに、人影はゼロ。時計の針が止まったような光景、コロナショック！草津の別荘地帯にある宿『湯宿・季の庭』に泊まる。宿に入り靴を脱ぐとスリッパ無し、畳の廊下が続く帳場、係の人に案内され、部屋に入るとベランダには桧造りのかけ流し温泉風呂があり、トイレの中まで畳敷！宿は大浴場もありましたが、貸し切り温泉が5か所庭に散在して予約で5か所の風呂を巡る。夕食はほぼ個室に近い仕切りで、おいしい上州牛のステーキ食べ放題、追加をすれば係の方が持ってきてくれて、ビール、日本酒などが飲み放題で1万円以下の宿泊代で『辰巳館』でした。メールで申し込み、フロントで免許証を見せるだけで五千円割引の手続きが終わり、利根川沿いで谷川岳が見える部屋、貸し切り温泉には冷蔵庫が有りビール、日本酒などの飲み物がズラリ、全部タダ！心が洗われる思いで帰宅の途に就きました。(西正裕)



貸し切り風呂



## 待ちに待った婦人会総会

4月婦人会例会が8名の出席で開かれました。16日の緊急事態宣言発出の直後でした。マスク、消毒、椅子の間隔を開け、窓やふすまを全開にしてのビデオ法話視聴後、会食なしで解散しました。以後、5月末まで寺行事が一切中止となりました。自粛中の私はマスク不足の折、コロナ禍の早い収束を望みながらマスク作りの針を進めていました。

待ちに待った宣言解除後、1か月遅れの婦人会総会が6月19日開かれました。病気等の欠席者を除いて18名参加でした。お勤めと総会議事に加えて、初の試み、皆勤賞(例会全出席)と精勤賞(欠席2回まで)の表彰を行い、12名に記念品が贈られました。拍手を受ける素敵な笑顔が自粛生活のストレスを吹き飛ばすようでした。また、群馬県で「新型コロナウイルス感染症に係る寄付」を募っていることを知り、医療従事者に対する支援や感染症対策の一助になればと、当日参加者の皆様から沢山の寄付金をいただきました。寺と会の災害義援金と合わせて



11万円を後日県へ振り込ませていただきました。寄付のお声かけに一齐に賛同して下さった皆様のダーナのお心に感謝の思いで一杯です。

今後皆様と共に、社会に目を向けながら婦人会活動を進めていきたいと思えます。合掌

(泉昌子)

## 2か月遅れの壮年会総会

緊急事態宣言が解除され他県への移動も可能になりました。でも都会ではいまだに感染の続く7月5日に、2か月遅れで25名の会員が参加し仏教壮年会の総会が開催されました。



総会に先立ち西蓮寺ご住職の艸香雄道師のご法話をいただきました。講題は「さわりなき道を歩む」で現状のコロナ禍の社会を話題にされたものでした。そのお話しで気付かされたのは、「生死一如<sup>しじょうじついちにょ</sup>」でした。それは「生きるということ、死ぬということ」は一つのことと切り離せない仏教の教えであります。私は、これからの人生を常に死を見つめながら生きることを大切に歩んでまいります。

総会に入り、会長、ご住職の挨拶のあと、前年度決算報告があり異議なく承認され、役員改選もコロナ禍の現状から現体制で1年の続行を全員一致で了解されました。恒例の前年度例会の皆勤者10名が表彰され、ご住職から記念品の贈呈がありました。続き令和2年度弘教寺仏壮年間行事計画の説明があり、コロナ禍の影響で行事等が縮小と中止となっている計画に全員の賛同をいただき、最後に各サークルより活動内容の説明で閉会し、令和2年度が無事にスタート。

(橋本勝)

## 実践で学びたい!

コロナウイルスの大流行が始まってから早くも半年が過ぎました。

私が4月から通う予定でした勤式指導所の練習生過程も1か月遅れてウェブ授業でスタートしました。勤式指導所は宗門の特にお勤めを重点的に学ぶための学校で、本山の中で働くお坊さんを育成する所です。

さて、今回のパソコンの画面越しでの授業は移動の必要がなくて楽なのですが、その反面大きな問題があります。それは、読みは上達するけど実際の流れや作法が一切練習できないということとです。お勤めにおいて作法は読経と同じくらい大切なものです。いくら読みがうまくても動きがいい加減では台無しです。コロナが収まりの兆しを見せ、7月、ようやく1週間のスクーリングという形で実技の授業が組まれました。しかし、その期間で完璧な作法を身につけるのはとても厳しく、コロナのせいとはいえとても残念に思っています。

一刻も早くコロナが収束して、今までの生活にもどれることを願うばかりです。皆様もどうぞお大事に。合掌

中山大悟



勤式指導所

真悟の京都日記(10)

今回は、今世界で蔓延している新型コロナウイルスについてお話ししたいと思います。

感染が拡大し、日本全国に蔓延していった時期、京都でも感染者数は百人を超えて気軽に外出することは不可能な状態でした。そんな中で京都某大学の学生が海外から帰国し感染が判明。ネット上では馬鹿な大学生が...とあきれられる声や、馬鹿にした声が目立ちました。しかしそれ以上に酷かったのが感染した大学生、そして大学への過度な誹謗中傷でした。それは言葉だけにとどまらず、個人情報の特定など実質的な被害を及ぼしました。

新型コロナウイルスという、人類史に残るであろう脅威に侵される若者を、人生に影響が出るほどに攻撃する...これは果たして正しい行いなのでしょうか？

今回のコロナ騒動で、前述のような感染者叩き、コロナ患者に命がけで関わる医療従事者差別、自粛警察など、様々な問題が生まれました。

これらの問題は「当事者ではない人々が」「コロナに恐怖を感じ」「正義の名のもとに」行ったことであると私は感じています。

この問題を、皆さんはどう感じておられるでしょうか、いつか皆さんの意見を聞いてみたいものです。



閑散とした渡月橋

合掌

ホームページを見よう!

新しく来寺される方が弘教寺を見つけ出すきっかけは、業者やご門徒様の紹介、看板、そしてホームページです。そこで、今回ホームページを新しくしました。

パソコンやスマホで「群馬県弘教寺」と検索すると弘教寺のホームページが開けます。トップページが一新(リニューアル)されて、本堂や普段見られない阿弥陀様の写真が目飛び込んできます。何よりの特徴は、「最新記事」です。弘教寺の今がわかります。「住職の聞いて！見て！」や弘教壮年会・婦人会の活動の様子、寺の行事等について、随時投稿しています。事情で寺に足を運べない方にも寺で今どんなことが行われているかを知っていただくことができます。更に、「弘教寺NOW」ではツイッ



藤の花、境内地の自然の様子をお届けしたり、新型コロナウイルス感染症対策をしての葬儀や法要について「お知らせ」で発信し安心して寺を参拝していただけるようにしています。また、ツイッター「つつじの呟き」の投稿や寺報「つつじ寺だより」の過去号も読めます。時々開いてお寺の情報をご利用いただければ幸いです。

※表紙のQRコードからも検索可。(坊守)

※編集後記※

自粛・3蜜・ソーシャルディスタンス・クラスターの言葉を見聞きしない日のない昨今、当寺の行事も中止や見直しを余儀なくされている。コロナに関する様々な報道がある中、「偏見や差別」の実態も知らされる。「偏見や差別」は正しく知らないことから起こると言われる。第2波に備え「正しく知り、正しく恐れる」との提言もある。この寺報が届く頃、少しでも明るい兆しが見えることを願うばかりである。(栗原政廣)

◆ 行事予定 ◆ 令和2年 8月～ 令和2年 11月				
月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月			13日～16日	お盆
	20日	子どものつどい 中止 婦人会例会		
9月	13日	壮年会例会 (第2回)	18日	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
	29日	婦人会例会	19日～25日	秋彼岸
10月			1日	ピハラ法話会 中止
	中旬	歌声喫茶予定		
	19日	婦人会例会		
	下旬	第31回ゴルフコンパ 予定		
11月	15日	壮年会例会 (第3回)		
	20日	婦人会例会	11日～16日	築地本願寺報恩講